

台風1号に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



台風1号が発生しました。
本県には5月31日から6月1日にかけて接近する可能性があります。
(台風の経路図は気象庁ホームページより引用)

また、令和6年5月27日16時38分に「大雨と強風に関する福島県気象情報第1号(福島地方気象台)」が発表されました。

今後の台風の情報に留意し、農作物等の管理には万全を期してください。
台風が、停滞する前線の活動を活発にし、大雨となるおそれがあります。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所には近づかないでください。

○大雨と強風に関する福島県気象情報第1号(福島地方気象台)

中通りと浜通りでは、28日夜から29日にかけて、低気圧や前線の影響により大雨となり、海上では南よりの風が強い見込みです。大雨による土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風に注意・警戒してください。

【気象状況】

28日は、前線を伴った低気圧が東日本を進み、29日には日本の東に達する見込みです。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込むため、前線の活動が活発となるでしょう。また、太平洋側南部では、気圧の傾きが大きくなる見込みです。

【予想と防災事項】

<雨の予想>

中通りと浜通りでは、28日夜から29日にかけて、激しい雨が降り、大雨となる所がある見込み。雨雲が予想以上に発達した場合は、警報級の大雨となる可能性がある。

27日18時から28日18時までに予想される24時間降水量は、いずれも多い所で、

中通り 80ミリ
浜通り 80ミリ
会津 40ミリ

その後、28日18時から29日18時までに予想される24時間降水量は、いずれも多い所で、

中通り 100から150ミリ
浜通り 100から150ミリ
会津 50から100ミリ

<風の予想>

海上では、28日夜から29日にかけて、南よりの風が強い見込み。気圧の傾きが予想以上に大きくなった場合は、警報級の風となる可能性がある。

28日に予想される最大風速（最大瞬間風速）

海上 18メートル（30メートル）
浜通り陸上 13メートル（25メートル）
中通り 13メートル（25メートル）

29日に予想される最大風速（最大瞬間風速）

海上 15から19メートル（20から30メートル）
浜通り陸上 10から14メートル（20から25メートル）
中通り 10から14メートル（20から25メートル）

<防災事項>

中通りと浜通りでは、28日夜から29日にかけて、警報級の大雨となる可能性があります。大雨による土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。また、海上では、南よりの強風に注意・警戒してください。

【補足事項】

今後発表する警報、注意報、気象情報に留意してください。

土砂災害や浸水害、洪水害のキキクル（危険度分布）に関しては「気象庁ホームページ」などを確認してください。

次の「大雨と強風に関する福島県気象情報」は、28日6時頃に発表する予定です。

【水 稲】

1 事前対策

- (1) 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除いておきましょう。
- (2) 畦畔が崩壊しないよう点検をし、必要に応じて補強しましょう。

2 事後対策

- (1) 冠水した場合は、少しでも早く葉先を出すよう早急に排水します。特に、濁水がほ場内に停滞した場合は、早急に水の入替えを行きましょう。
- (2) 浸水・冠水したほ場では病害虫が発生しやすくなるので、ほ場をよく観察し必要に応じて薬剤による防除を行きましょう。
- (3) ほ場内に流木等の異物が流入した場合は、早期に取り除きます。

【大豆、麦類、夏そば】

1 事前対策

速やかにほ場排水ができるよう明きよ、暗きよ等を点検し、ゴミ等の除去などを実施しておきましょう。水田転換畑などの滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

2 事後対策

- (1) 表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。
- (2) 収穫期となる麦類で倒伏したところは、品質向上と放射性物質対策のため刈り分けし、別工程で調製しましょう。刈取部に泥が入らないよう注意するとともに、調製を丁寧に行いましょう。

【野菜・花き】

1 事前対策

(1) 共通

- ア ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害のおそれがある地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。
- イ ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。
- ウ パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニルの破損があれば補修しましょう。
- エ パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強しましょう。
- オ 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- カ 雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、らせん杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。
- キ 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- ク は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

(2) 野菜

- ア 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。
- イ 露地きゅうりやさやいんげんは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。なすやピーマン、アスパラガスは、支柱やフラワーネットを点検し、倒伏を防止しましょう。

(3) 花き

露地栽培では、フラワーネットや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

2 事後対策

(1) 共通

- ア 停滞水は、明きよなどで速やかな排水に努めましょう。
- イ ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。
- ウ 台風通過後は、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

(2) 野菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復させましょう。

- イ マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的に剥がして乾燥させましょう。
 - ウ 果菜類は、損傷を受けた果実は早急に摘果しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
 - エ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、草勢回復のため、液肥や酸素供給剤のかん注、葉面散布剤の散布を行いましょう。
 - オ 収穫した野菜は傷みがないか確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。
 - カ 冠水時間が長く回復の見通しが無い場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょう。
- (3) 花 き
- ア キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
 - イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

【果 樹】

1 事前対策

- (1) 水の停滞しやすい園ではあらかじめ明きょ等の排水溝や暗きょを整備しましょう。
- (2) モモせん孔細菌病やナシ黒星病が発生している地域では、台風の風雨の影響で感染が拡大するおそれがありますので、台風の接近前に防除を実施しましょう。
- (3) 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束しましょう。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにしましょう。
- (4) りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しましょう。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認しましょう。
- (5) 果樹棚（なし、ぶどう等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行いましょう。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。
- (6) おうとうの雨よけ栽培等パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニルの破損があれば補修しましょう。

2 事後対策

- (1) 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。
- (2) 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。
- (3) 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施しましょう。
- (4) 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて摘果を行いましょう。
- (5) 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定しましょう。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょう。

- (6) 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーや等で散水し、樹体温を下げるるとともに湿度を維持し、被害の軽減を図りましょう。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

- (1) 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょ。
- (2) 入り口等が開放されている飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。
- (3) 肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょ。
- (4) あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょ。
- (5) 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょ。

2 事後対策

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょ。
- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょ。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>